

ワンドロップ小学校 食料支援ニュースレター

2020年6月28日

雨季にはいったバングラデシュでは、未だ新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。

3月に国内の学校が休校になり、子どもたちは食料もなくお腹を空かせ、先の見通せない不安な毎日を送っています。

親たちは、日雇いの仕事もなく、収入も激減し、ただでさえ貧しい環境の家庭だったのに、さらに困窮した暮らしに追い込まれています。

ワンドロップは、運営するマジュンダー・ワンドロップ小学校の子どもたちの家庭に向けて、学校が再開されるまでの間、食糧支援を続けることを決めました。6月18日、4回目の食料支援が行われ、その様子が動画で送られてきました。

雨が続けているため校庭での食料配布ができなくて、新しく増築されたワンドロップ小学校3階の多目的エリアに全校生徒を集めて配布されました。

この3階の増築はワンドロップの熱い想いがあります。開校は2016年です。1年生20名、平屋の学校からスタートしました。その子たちは、今年2020年は最終学年の5年生に進級しています。全校生徒は100名になりました。校舎も3階建てになりました。トイレも5室に増設されました。

でも、残念なことに、まだこの施設が本来の学校の形では機能できていません。新型コロナウイルスのため、学校から子どもたちの姿が消え、笑い声、勉強する声が消えています。とてもさびしいことです。

学校で食料支援をすることで、“ここで学ぶ日がきっと来る”という希望を生徒たちに持ってほしいのです。

今回、ルニ校長がワンドロップの応援メッセージを代読してくれました。元気でいてほしい、勉強を続けてほしい、という想いを伝えました。（メッセージは以下のとおり）

支援の様子を伝えるビデオに、子どもたちの大きな「ありがとう！」の音が響いていました。

みなさんのご支援のおかげで子どもたちに笑顔がもどっています。

OneDrop(バングラデシュ教育支援の会)代表
大西 登志子



今回のワンドロップからのメッセージは以下のとおりです

ワンドロップメンバーのMDさんに翻訳してもらい、現地のルニ校長が代読しました。

アッサラームアライクム

みなさん、イードがおわりましたね。元気ですごしていますか。

コロナで世界中が混乱しています。

でも、止まない雨はありません。きっとこの先、笑ってすごせる 때가きます。

何度も言います。自分を守るのは家族を守ることですよ。

約束してください。

① 人ごみに行かない。手を洗う。マスクをする。

② 家の手伝いと勉強もがんばってくださいね。

いつもあなたたちのことを考えています。

OneDrop あなたたちの日本の友人より



後記

緊急食糧支援のお願いにたくさんの方々が応えてくださっています。ご送金いただいた方には心から感謝いたします。ありがとうございました。今回のように、ニュースレターの形で現地の様子を随時お伝えしようと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

加古川市総合庁舎内かこむ（生活創造センター）にて、食糧支援の様子を伝える写真展を開催しています。7月3日までです。なお、食糧支援の様子などはブログやフェイスブックで紹介しています。ご覧ください。

<http://onedropbangla.seesaa.net/>